

## 2 「学びを深める ICT 活用—音楽科教育の未来を考える—」意見交換会第1回・第2回

深見 友紀子 (大東文化大学)

降矢美彌子の多文化音楽教育 0.5



昨年12月、音楽科教育におけるICT（デジタルテクノロジー）活用に関する意見交換会を立ち上げました。

日時：第1回：2018年12月2日（日）13:30-17:00

第2回：2019年2月24日（日）13:30-17:00

会場：大東文化会館研修室

参加者：大学の研究者，現場の教員，大学院生，  
楽器メーカーや出版社などの関係者

第1回のプレゼンターは初山正博さん（都小音研電子楽器研究会顧問）。長年、電子楽器やデジタル教材に関わり、これまでの経緯をつぶさに見てきた先達として、「子供の深い学びを支えるデジタル教材の在り方」についてお話されました。

続く第2回のプレゼンター、小梨貴弘さん（埼玉県戸田市立戸田東小学校音楽専科教諭）の発表は、「ICT活用で進める音楽科のディスラプション—授業・行事環境の視点から—」。ディスラプションとは、従来の価値観を破壊して新しいものを創造するという意味の用語で、≒破壊的イノベーションです。ICT活用のトップランナーとしての情熱がタイトルからも伝わってきました。

構成は前半がプレゼンテーション、後半がディスカッションで、90分のプレゼンテーションの後、参加者全員が肯定的な感想やアンチテーゼを述べ、進行役である私がそれらをピックアップしつつ、議論を進めました。一つの話目が別の話題を呼び起こし、インターネットや文献では決して集めることができない意見、考え方に触れることができました。

新学習指導要領の実施に向けて、特別教室（音楽室を含む）においてもICT環境の整備を加速し、これらを適切に活用した学習活動の充実を図るべきであるとされました。この会を立ち上げたのは、学校全体でICTを活用した学びについて考えていかなければならない時を迎えているのに、音楽科では何をすべきなのかを、全教科の動向を視野に入れ、広い見地から検討しようという動きがほとんど見られなかったからです。また、主体的な学び・対話的な学びを実現するためにICTの特性や強みを生かしていくべきであることも明文化されたのに、小梨さんのような存在はまだ「点」にしかすぎず、「面」ではないことへの危機感もありました。

一般社会では、デジタルテクノロジーが新しい表現や新しい学びの方法を次々生み出しています。音楽室の設備や先生の意識が昭和時代からほとんど変化しないために、音楽科がデジタルテクノロジーの恩恵を受けられないのは残念であると思います。意見交換会は3回目以降も継続して行う予定です。同じ思いの方がいらっしゃったら、是非ご連絡ください。日時や場所が決定し次第、私からご案内します (fukami@ongakuyouiku.com)。